

平成 26 年 2 月 11 日

日本機械学会関東支部東京ブロック／神奈川ブロック  
イベント報告書

東京ブロック長 渡邊 敏幸

東京ブロック企画として、東京ブロック シニア人材フォーラム（第 5 回）「中小企業診断協会と新現役（シニア人材）の連携の促進を図る」を横浜市神奈川県民センターにて行いましたので、ここに報告いたします。

イベント名：東京ブロック シニア人材フォーラム（第 5 回）  
「中小企業診断協会と新現役（シニア人材）の連携の促進を図る」  
主催：一般社団法人 日本機械学会  
（関東支部東京ブロック／神奈川ブロックおよびイノベーションセンター）  
協賛：一般社団法人 神奈川県中小企業診断協会  
企画：日本機械学会関東支部東京ブロックおよび日本機械学会 イノベーションセンター  
日時：平成 26 年 1 月 25 日（土）13.00～19.00 [講演(13:00-17:00), 交流会(17:00-19:00)]  
会場：神奈川県民センター 402 会議室  
（〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2）  
参加者数：38 名

#### 企画内容概略

日本機械学会では、高度の専門知識と多くの経験、そして高い見識をもった技術者である会員が新現役（シニア人材）として自ら登録する制度を 2008 年度より実施している。2011 年度に、一般社団法人 中小企業診断協会との相互連携を目指し、シニア人材フォーラム（第 3 回）を実施しました。

この相互連携をより促進するため、今回のフォーラムでは両者の活動内容を具体的に説明する機会としました。講演は日本機械学会 イノベーションセンターが最近取り組んでいる事例報告、最近の技術動向としてロボット技術の説明、さらに日本機械学会および中小企業診断協会が実践されている企業支援事例報告を頂きました。これらの講演を通じて、シニア技術者への期待や求められる事項等が、参加者に伝えられた。

#### 日程

13.10 開会

司会 中山 良一（関東支部東京ブロック）

13.10～13.25 【主催者挨拶】

関東支部東京ブロック ブロック長 渡邊 敏幸  
関東支部神奈川ブロック ブロック長 松本 裕昭

渡邊ブロック長から東京ブロックが取り組んできた過去 4 回および今回のフォーラムについて経緯を説明した。また松本ブロック長から神奈川ブロックの現状について紹介頂いた。



東京ブロック ブロック長 渡邊 敏幸氏



神奈川ブロック ブロック長 松本 裕昭氏

13. 25～13. 50 【講演：日本機械学会のシニア活動について】

村上 俊明 日本機械学会イノベーションセンター アドバイザー

日本機械学会が、2008年度に新現役（シニア人材）チャレンジ支援事業について中小企業基盤整備機構からの委託事業として着手し、2009年度まで継続し、その中で学会としてのシニア人材登録やその方々の技術分野分類や技術レベル紹介ホームページなどを説明頂いた。

また、このシニア活動を全国的に実施するため、会長から全国各支部にシニア会の発足が要請されていること、今回のフォーラムが関東支部のシニア会組織へ繋がることへの期待も説明頂いた。

過去から現在に至るシニア活動として、具体的な人材マッチングの実施、コンシェルジェを通じた紹介活動も実施して、いくつかの具体的な事例も成立した。2010年度以降は、単独の学会事業として、人材活躍・中小企業支援事業委員会として活動している。この中から企業への講座提供、講師派遣などが実現していることも説明頂いた。

最後に、中小企業診断協会との連携をより深める良い機会と捉えて、経営課題に往々として含まれている技術的な問題解決についての協力・支援を学会としても推進したいとの意を示された。

村上 俊明アドバイザー



13. 50～14. 55 【講演：ロボット技術の最新動向】

早稲田大学 藤江 正克 教授

ロボット技術の研究開発動向について、長年携わられている藤江先生に講演頂いた。講演では、先ずロボット研究開発の流れを早稲田大学の加藤先生の二足歩行ロボットやマニピュレータ、また藤江先生が企業時代に開発した原子力や宇宙などのロボット、さらには医療支援ロボットなど多数の事例をご紹介頂いた。

ロボット技術の中で、人が操作するより精度の高い位置決めメカニカル・制御技術は、長年の成果を宇宙用マニピュレータや手術支援ロボットなどに適用されて、非常に役立っている。今後日本を初めとする高齢化社会において、ロボット技術が人間の生活支援やリハビリテーションなどに多用される時代を迎えつつあり、そのために最近進められている先端的な医療・工学を融合した研究開発事例を紹介頂いた。

なお、2011年に発生した東京電力（株）第一福島原子力発電所の事故に対して、当初日本製ロボットが活躍できなかったことについて、日本でのロボットの研究開発は先端的ではあったが、これらのロボットを利用する環境もなく、また税制などの問題もあり、多くが破棄または単なる保管のみとなっていたことも説明頂いた。

藤江先生の長年の研究成果を多数のスライドでご紹介頂き、機械技術の今後の展開への展望も感ずることができた講演であった。

藤江 正克 教授



15. 05～15. 45 【講演：日本機械学会シニアの活動事例(中小製造業の支援活動事例)】

サイエンス株式会社 加藤 展宏 顧問

サイエンス（株）加藤顧問から、自社の製品（熱回収ヒートポンプ利用省エネ製品、ろ過処理装置など）のご紹介と、これらを開発・製造・販売・保守を一貫して実施する企業の経営、技術課題をご説明頂いた。先ず、中小企業支援として加藤氏が取組んだことは、企業経営基盤の整備、人材難、資金難を克服するため、設計や工場でのQC意識の高揚、見える化による共通認識、教育を通じてのコスト意識を徹底することを実践された。さらには、中小企業診断士などのコンサルタントの方々の支援を得ながら、研究開発の資金、人材支援の獲得などを進めて、従来の「伝統工芸品製作工房」から「工業製品を製造する工場」へと脱却することを図って、実現している。

加藤氏の事例は、機械系中小企業での支援として非常に具体的であり、参加している学会員と診断協会会員の両者共に共感する部分を多数含んだ講演であった。

加藤 展宏 顧問



小倉代表理事から、中小企業診断協会が全国および支部でどのような活動を進めているのか、また会員（中小企業診断士）の活動に機械学会との協力・連携が役立つ可能性があること、今後良い連携事例を作りたいとの挨拶を頂いた。



小倉 仁志代表理事

15. 50～16. 45 【講演：技術系中小企業診断士の活動事例—固有技術を管理技術で伸ばす支援—】

株式会社浜テクアート 島崎 浩一 代表取締役社長

島崎社長は、機械系出身であり、その専門を生かして自動車産業、配電盤メーカ、精密部品メーカなどへの経営支援活動を実践され、その中から事例を具体的に紹介頂いた。

特に、島崎社長は解決策を現場のヒアリングや分析から発掘し、その対策案を単に提案するのではなく、改善結果を定量的に把握できる形でコミットメントすることを実践されている。具体的な事例では、現場の作業レイアウトの改善で、作業者の動作時間の短縮、また設計部門では品質不良を低減する施策を課題として取り上げ、実際の設計段階での改善案を自ら実践することで能力向上を図るなどを提案・実践されている。

各種の改善取組みを関係者が共通的に理解できる「見える化」や週次、月次、年次などの時間幅での管理を実施して、効果がどの様に発揮されているかを企業に体感させる方式などを実践されている。

多数の事例をご紹介頂き、参加者が具体的な共感や感心を得られる講演であった。



島崎 浩一社長

17. 00～19. 00 【参加者全員による対話「交流会」】

講演会場の都合により、交流会は別な会場へ移動して実施した。約30名の方々が御参加頂き、相互の名刺交換、意見交換および全員の自己紹介を実施した。

交流会の様子（意見交換、自己紹介）

